

安城ロータリークラブ



週報

【No.613 2013/11第2例会】

例会日：毎週金曜日

例会場：碧海信用金庫本店3F

安城市御幸本町15-1

TEL:0566-75-8866

FAX:0566-74-5678

Email: anjo-rc19580206@katch.ne.jp

HP: http://www.anjo-rc.org

第2754回例会

2013年11月8日(金) 12:30~13:30

司会者：辻 隆士君

ソング：「手に手つないで」「四つのテスト」

卓上花：ミニバラ・かすみ草

ゲスト及びビジター：* 西尾一色RC IM実行委員長 小池 孝様
IM実行副委員長 都築勇一様
* 岡崎東RC 2015-16年度地区大会
実行委員長 市川幾雄様
実行幹事 柴田健吉様
実行副幹事 安川政男様



2013-2014年度RIテーマ：

「ロータリーを實踐し、みんなに豊かな人生を」

安城ロータリークラブ会長方針：

「充実したロータリーライフを楽しもう。」

- 会長：都築 雅人
- 幹事：神谷 研
- クラブ会報：青山竜也・川合昭道・加藤英明
- 創立日：S33年1月10日
- RI加盟認証日：S33年2月6日

■会長挨拶

都築 雅人会長

《あいさつ》

11/1 第5回 理事会

1. 出席免除の件

河合昭道会員から、例会出席義務免除の申請が提出された。・・・承認

2. 次年度理事候補の件

永谷文人エレクトから、次年度理事候補名簿が提出された。・・・承認

3. 刈谷児童相談センター訪問の件

「子育てに悩む親に対する援助」の運営要領について、検討した。

4. 収支報告

11/3(日) RCC ロータリー旗争奪少年野球大会 3:1で、安城選抜チーム優勝。

11/7(木) 鈴木福美会員の米寿祝賀会 於 川本



◆アイソン彗星がやってくる◆

2012年9月に発見され、今世紀最大の彗星になると期待されている。
11月29日、太陽に最接近する。11月中旬から12月上旬に明け方の東の空において肉眼でも尾が見えるようになると予想される。羽田空港からの飛行機ツアーがあるが、もう満席。

2013年10月17日(NASA ハッブル宇宙望遠鏡)



【11月のクラブ内例会・委員会予定】

- 15日 地区ロータリー財団委員会卓話
卓話者 地区ロータリー財団委員長 鈴木文勝(すずきふみかつ)様(小牧ロータリークラブ)
テーマ「ロータリー財団未来の夢計画について」
- 22日→ 24日(日)地区大会へ例会変更
- 29日 定款により休会

《11月の行事予定・地区会議》

- 8日 体育協会反省会 18:00～ 川本 神谷幹事
- 9日 米山奨学会・財団学友研修会 ニー・ニー・エイさん 奥田カウンセラー
- 9.10日 東日本復興支援活動
- 10日 RLI会議 9:30～19:00 名鉄グランドホテル 永谷会長エレクト
- 17日 ガバナー補佐杯 葵CC
安美展表彰式 14:00～ 都築会長
- 23.24日 地区大会 ウェスティン名古屋キャッスル
- 27日 写真ランチ合同同好会 9:00～香嵐溪

■ 幹事報告

神谷 研幹事

- ・11/3に行われました第16回ロータリー旗争奪 RCC少年野球大会は安城選抜チームが優勝致しました。
- ・11/9.10東日本復興支援活動に出発致します。
参加者 都築雅人ご夫妻・野村繁雄ご夫妻・藤井英樹ご夫妻・内藤教恵さん・石川 博君・山口 研君
- ・11/24(日)地区大会のお知らせを配布いたしました。
9:10 JR安城駅立体駐車場南吉壁画前
9:20 名鉄新安城南口 に集合下さい。
受付及び友愛の広場での軽食10:30～ 本会議開始が12:30(12:45が変更)になっております。
- ・11/27(水)香嵐溪への写真ランチ合同同好会は杏名俊裕君のご厚意のより榊東祥のマイクロバスを使用
させていただけることとなり登録料を¥5,000に変更をいたしますのでご参加ください。締め切りは本日！！
- ・12/22(日)クリスマス家族会のご案内を配布致しました。11/22までに登録ください。
又、例年同様協賛品の提供をお願いいたします。12/13までに事務局までお持ちください。
- ・安美展の安城ロータリー賞が決まりましたので回覧いたします。
日本画部門 亀井銀三(かめいけんぞう)作「薊(あざみ)」

■ 出席報告

近藤 裕保君

■ ニコボックス報告

福田 雅美君

会員	60名
出席義務者	47名
出席	38名
欠席	8名
出席免除者の出席	12名
出席率	86.20%
修正出席率	10月25日 第2752回 85.96%



卓話者：NGO『ライズ・エイジア』上田 敏博様

テーマ：「世界の扉 ～フィリピン最貧困地域の活動～」

学生時代、自分の人生のあり方に疑問を感じ、新たな刺激を求めて東南アジアに旅に出ました。その時のスラムのすさまじい現実に衝撃を受け、しかしそこに生きる子どもたちの笑顔に勇気づけられました。それからいろいろなことを考えました。私の価値観は変わり、国際協力に携わりたいと思うようになりました。

1988年7月、フィリピン中部のパナイ島イロイロ市の職業訓練センターに木工指導で派遣されました。赴任当初、下宿先のおばちゃんにシャツの洗濯を頼んだところ、ボロボロになって戻ってきました。島では木の棒で衣類を叩いて洗うのが一般的な洗濯の仕方でした。そこで「洗濯板」を思いつき、同センターで試作、完成させました。下宿先のおばちゃんにプレゼントしたところ「泡立ちも良くて使いやすい」と大喜びされ、口コミで評判が広がると主婦から注文が殺到しました。私はこの洗濯板を「ラバ・ボード」と名付け、同センターで職業訓練の一環として製作指導するかたわら、山村まで出かけ実演を続けました。この活動はフィリピンのマスコミにも取り上げられ、職業訓練センターを統括する労働省から「フィリピン全州にある職業訓練センターを周って、洗濯板製作指導をしてほしい」という要請から「フィリピン全土洗濯板普及プロジェクト」として2年間、何千人に及ぶ人々に洗濯板の作り方を伝えてきました。イロイロ市で行われた実演会には、アキノ大統領、ラウレル副大統領も顔を見せ、副大統領に手作りの洗濯板をプレゼントしました。「これこそ待ち望んでいた援助」とトレス労働省長官から表彰を受けました。

青年海外協力隊員として、洗濯板普及プロジェクトの最後の滞在地が、アジア最大のスラム、スモーキーマウンテンでした。そこで仲良くなった子どもの一人が風邪で亡くなりました。その時、これから成長する子どもたちに何かしたいと思い、日本に帰国するなり、国際NGO団体セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのフィリピン駐在員として都市の貧困地域開発、ピナトウボ火山被災地域復興支援、ストリートチルドレンを対象に教育、医療活動を推進してきました。その後、現地法人のNGO団体を設立し、都市の貧困地域開発として寺子屋(幼稚園)運営、奨学金制度などの支援活動やフィリピン子ども民族舞踊団「母なる大地の子どもたち」を立ち上げ、環境と文化の伝承をテーマに1992年より毎年海外公演を行っています。2000年から今までに5回、日本公演をしました。2005年愛・地球博EXPOホールにて、2006年フィリピン友好50周年事業として日本6都市ツアーも行いました。2013年5月には、アメリカ4都市で上演しました。

「人は豊かさや便利さばかりを追求して生きて良いのか?」「本当に人間らしく生きるということはどんなことなのか?」「人間にとっての本当の幸せって何なのか?」私を含む多くの日本人が失ってしまい、しかし取り戻したいと願っているヒューマニティを、フィリピンでは思い出すことができました。これは言い換えれば「生きる」ことを享受する素朴な喜びであり、未来への不安に怯えたり、通り過ぎた過去をくよくよ振り返ったりせず、未来に希望を抱きながら、精一杯生きているということです。もし私がフィリピンの人たちと出会わなかったら「生きる」ということについて深く考えることもなかったかもしれません。「人間らしく生きる」こと。それがフィリピンの人たちが、私に教えてくれたことであり、今なお私が学び続けたいと思っていることです。

